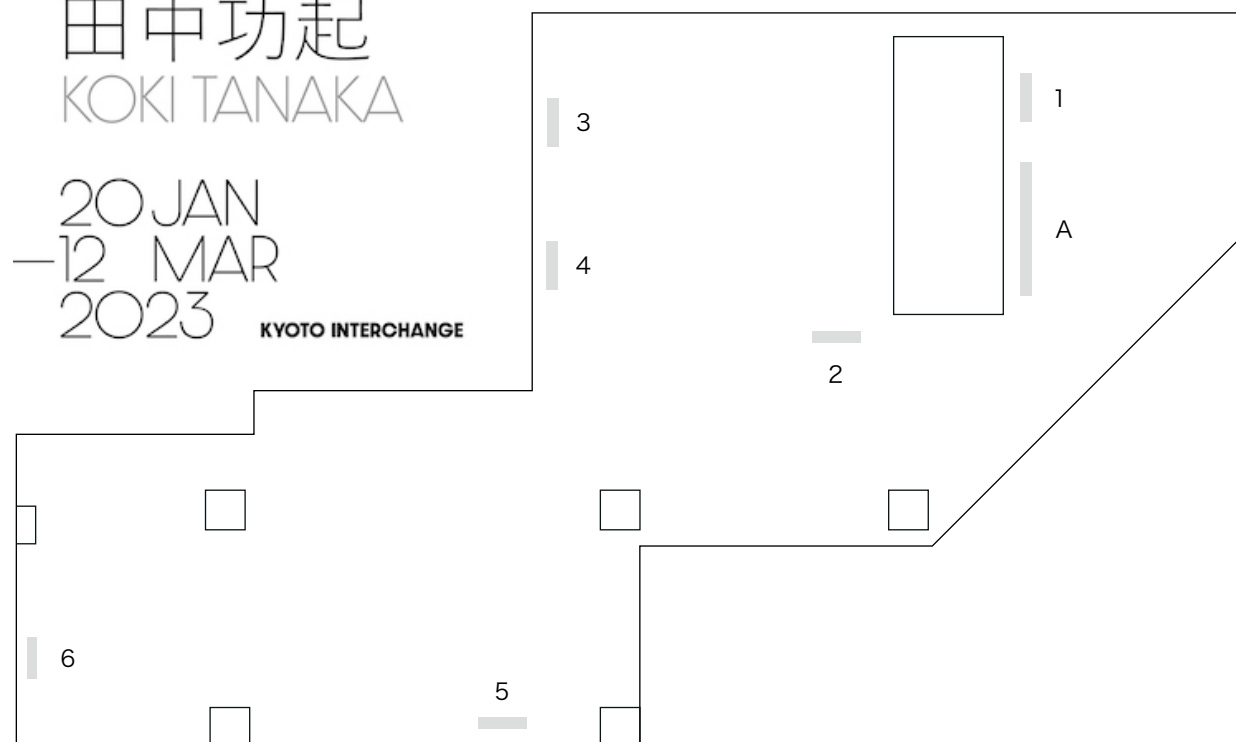


田中功起
KOKI TANAKA

20 JAN
- 12 MAR
2023
KYOTO INTERCHANGE



A ステイトメントバナー, 2023, H145.5xW102.8cm, プリント

※ステイトメントバナーはNFTとして販売しております。詳細は右のQRコードよりご覧ください。

販売金額の一部を、あるいは全部を、任意の団体や個人などに寄付する可能性をアーティストに委ねているKYOTO INTERCHANGEは社会正義のためのアートスペースとして機能する可能性を秘めている。けれどもその基盤となるアーティストへの経済的サポートが覚束ないと感じた。そのため、まずは運営に介入する。今後参加するアーティストの中で、とくに経済的支援、制作費だけでなく生活費などを必要とするひとたちのための資金づくりをする。今回の展示での作品売上のすべてはKYOTO INTERCHANGEがプールし、今後必要なときに再配分される。作品がソールドアウトするまで会期は順次、延長される。将来、KYOTO INTERCHANGEからその総額がばくりに返却されることも可能性として残す。(田中功起)

KYOTO INTERCHANGE



ステイトメントバナーNFT

KYOTO INTERCHANGEはアーティストのイニシアティブを最大限尊重することをコンセプトとしており、作品販売の方法もアーティストが決定しています。そのため運営資金を多角的に調達する必要があります。その一つとして、各プロジェクト毎にNFTを100個限定で発行いたします。これは「ある特定の時期にKYOTO INTERCHANGEというプロジェクト・フィールドでアーティストが何をしたのか」を端的に示す記録となっています。活動に賛意を頂ける方からのあたたかいご支援を歓迎します。

- 1 Abstract with Cat (infrastructural work) #3, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
 - 2 Abstract without Cat (infrastructural work) #2, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
 - 3 Abstract without Cat (infrastructural work) #3, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
 - 4 Abstract with Cat (infrastructural work) #2, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
 - 5 Abstract without Cat (infrastructural work) #1, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
 - 6 Abstract with Cat (infrastructural work) #1, 2023, H53.0xW53.0xD6.5cm, アクリル絵具、キャンバス ¥1,000,000(税別)
- ご希望の方はスタッフまでお問い合わせください。

本展「田中功起」では、彼の新作絵画6点を紹介します。近年の田中は社会政治性に対する独自のアプローチを含む映像作品、インスタレーション作品、公演作品で知られていますが、その背後に「絵画性」への信頼があることは見逃せません。本展で示されているのは、彼の新しい側面であると同時に本来備わっていた作家としての固有性でもあるでしょう。

また、絵画作品はKyoto Interchangeが標榜する新しいアートシステムに対する賭金にもなっています。Kyoto Interchangeは作品の制作、展示、流通などに関して、可能な限りの自治を作家に提案しています。それを受け、本展の絵画作品は全て販売されなければならない、またその用途も田中によって決定されました。Kyoto Interchangeは今後、十分な制作費によって作家を支援するプログラムを構想せねばならず、またプロジェクトを継続発展させることで、田中の「恩に報い」なければなりません。ただそれは「当たり前のこと」かもしれません。一見コンセプチュアルに見える装いの下に極めて人間的な信頼関係が可視化されているとも言えるでしょう。

展覧会の鑑賞をお楽しみ頂くのは勿論ですが、作品やNFTなどの購入によって、ぜひこの極めて貴重な機会にご参加頂ければ幸いです。

田中功起 | Koki Tanaka

ビデオや写真、サイト・スペシフィック・インスタレーション、あるいは介入的なプロジェクトなどの多様な芸術実践のなかで、田中はシンプルな日常的行為のなかに潜む複数のコンテキストを明示しようとする。オブジェクト指向の初期作品では、ありふれた日用品による実験を行い、日常のルーティーンから逃れる可能性を提示する方法を模索していた。のちの作品では、参加者たちに非日常的なタスクを集团的にこなすことを求め、そのありえない状況に直面している人々が無意識に示す振る舞いを記録する。それは、小さな社会や一時的な共同体のなかに生じる、集団の力学を明らかにしようとする試みである。主な展覧会と映画祭にベルリン国際映画祭(2020年)、ロッテルダム国際映画祭(2019年)、ミュンスター彫刻プロジェクト(2017年)、ヴェネチア・ビエンナーレ(2017年)など。

KYOTO INTERCHANGE
kyotointerchange.com / 075-600-2493 / info@kyotointerchange.com

覚書

KYOTO INTERCHANGEと田中功起は、「田中功起」展に合わせて以下の事項を相互に確認した。

- 展覧会「田中功起」(2023年1月20日から3月12日まで)に展示する絵画作品のすべてを売り切らないかぎり、展覧会会期を延長する。
- 売上金のすべてはKYOTO INTERCHANGEがプールし、将来の展覧会において、必要なときにアーティストに再配分する。配分先および金額はKYOTO INTERCHANGEが決定する。
- 本展覧会における売上金と同等の金額は、田中による猫のNFTを販売することによって、10年以内に田中に返却される予定である。
- 上記以外のことについては、その都度、誠意と相互信頼をもって協議し解決する。

2023年1月19日

KYOTO INTERCHANGE

山本麻友美



櫻岡聡



田中功起



KYOTO INTERCHANGE has the potential to function as an art institution for social justice as artists are given the possibility to rethink the distribution of their own sales. Artists can donate a portion or all of the sales from their work to any groups promoting social change or individuals of their choice. Despite this, I feel that the financial support for participating artists, which is the foundation of this institution, is not sufficient. Therefore, I have decided to intervene in their infrastructure, specifically in the way they raise their budget. I believe this is essential for KYOTO INTERCHANGE as its economic strategy has the potential to be a breakthrough in reframing conventional art systems. Among the artists who will be showing their work at KYOTO INTERCHANGE, I will raise funds especially for those who need financial support, not only in terms of production costs but also for living expenses. Therefore all proceeds from the sales of my works in this exhibition will be pooled by KYOTO INTERCHANGE and redistributed to those in need in the future. The exhibition period will be extended until the works are sold out. I also leave the possibility that KYOTO INTERCHANGE may return the total amount to me in the future.

Koki Tanaka